

議会

だより

117

12月定例議会号

平成31年 2月

発行 佐呂間町議会



「若佐元気屋台村」(若佐コミセン) 平成31年1月13日撮影

特集 中学生の見る議会 2~3P

12月第4回定例会

- ・審議した議案 4~5P
- ・町長行政報告 6P
- ・一般質問「公用車のドライブレコーダー設置について」など 7~10P

11月第2回臨時会 11P

議会ニュース ・道外行政調査報告 12~16P ・委員会レポート 17~19P

議員の似顔絵紹介 / 議員のひと言 20P



さろま

あなたと町議会を結ぶ情報誌

町議会URL <https://www.town.saroma.hokkaido.jp/gikai/>



特集 中学生の見る議会



12月12日、佐呂間中学校3年生が「総合的な学習の時間」の一環として町議会を訪れ、第4回定例会の初日、一般質問を傍聴しました。
生徒達は議場内の真剣な空気に緊張した面持ちで、議員と理事者のやり取りに聞き入っていました。
ここでは生徒の感想の一部をご紹介します。

積極的に選挙へ

西岡 真菜さん

私は特別傍聴席から議会を見学させていただきました。議場はとても静かで緊張しました。

見学時間は15分と短い時間でしたが、議場の雰囲気と議長さん側から見る議場の景色を体験できたのはとても貴重な経験だったと思います。私達も数年後には選挙権が与えられ、政治に参加することが出来ます。

ですから、よりよい街づくりのために、積極的に選挙に参加したいと思います。最後に、このような機会を与えてくださった全ての皆様に感謝したいです。

僕たちの事を考えた議論

長岡 輝さん

今回僕は人生初の議会傍聴を体験しました。控室で中継を見ている時とても静かで、とても緊張をしていました。

自分の班の順番が回ってきた傍聴が始まりました。その場には町長や教育長など町の主軸となる方々がたくさんいて、自然と自分も真剣になっていました。

議員さんや教育長などの方々が普段とだけ自分たち学生のための事を考えて議論しているかを知ることのできる良い機会になりました。このような機会を作っていただき、ありがとうございます。

議員の考えに感激

鈴木 啓介さん

自分は高橋議員の質問を傍聴させていただきました。

自分は今まで議会と関わりがなくて、どんなことをしているところかもよくわかっていませんでした。

しかし、今回傍聴させていただき、議員の皆さんが心から佐呂間のことを考えていてくれてとても感激しました。同時に議会のことにも少し興味が高まりました。

今回の経験を通して議員の方々が佐呂間のことをしっかり考えてくれていたことが改めてわかりました。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。

町民と町政のつながりを理解

高橋 史龍さん

町議会。

議員の父を持つ自分として、町政はどのように行われているかに興味を持っていました。

そこで今回の議会傍聴を通して知ることができたことがありました。

町民の考えが議員さんを通して、慎重に議論されていくことが学べました。

こうして常日頃、間接的ですが町民と町政はつながっていることがわかりました。今後は傍聴を通して、自分も積極的に市町村政に関わりたいと思いました。



第4回定例会

・審議した議案②

■遠軽地区広域組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更について
本町と遠軽町・湧別町の3町で構成する、遠軽地区広域組合の共同処理する事務及び組合規約に、破砕選別施設及び最終処分場を追加するほか、平成30年1月に組合事務局に衛生施設課が新たに設けられたことに伴い、構成3町の経費負担割合を変更するものです。

その他

■職員の自己啓発等休業に関する条例の一部改正
町職員が公務に支障がない範囲で、能力の向上のため大学課程等の履修又は国際貢献活動のため休業することを定めた条例で、この条例が引用している学校教育法の条項について一部改正されたことから、引用条文を改正するものです。

条例

■町立診療所に係る指定管理者の指定について
町立診療所「クリニックさろま」の指定管理者として、医療法人・恵尚会を指定した期間が平成31年3月31日で終了することから、新たな指定管理者を公募し選考を行った結果、応募のあった医療法人・恵尚会が適任とし、引き続き指定管理者として指定しました。

・管理を行わせる施設
佐呂間町立診療所
「クリニックさろま」
指定する指定管理者
宮城県宮谷市上桜木2丁目3番地4
医療法人 恵尚会
理事長 鶴木 和久
管理を行わせる期間
平成31年4月1日から
平成36年3月31日

選挙

■町選挙管理委員及び同補充員の選挙について
選挙管理委員及び同補充員の任期満了に伴う選挙の結果、次の方が当選されました。

一般会計 補正予算

審議した議案

予算

一般会計補正で
3034万円増

■平成30年度一般会計補正予算(第9号)
3034万円が追加され予算額が51億496万円になりました。
【主な歳入】
・ふるさと応援事業寄附金 1778万円
・普通交付税 900万円
・社会保障・税番号制度システム整備補助金 151万円
・北海道市町村振興協会助成金 121万円

【主な歳出】
・高齢者等石油製品価格高騰対策扶助費 520万円
・ふるさと納税業務代行委託料 433万円
・燃料費(道路橋梁維持費) 249万円
・燃料費(武道館・温水プール費) 236万円
■平成30年度簡易水道特別会計補正予算(第2号)
30万円が追加され予算額が3億2926万円になりました。
【主な歳入】
・前年度繰越金 30万円
・修繕料 30万円

■平成30年度国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
357万円が追加され予算額が8億5009万円になりました。
【主な歳入】
・保険給付費等交付金(普通交付金) 301万円
【主な歳出】
・一般被保険者療養費負担金 85万円
・出産育児一時金 210万円

■平成30年度介護保険特別会計補正予算(第4号)
28万円が追加され予算額が5億4089万円になりました。
【主な歳入】
・前年度繰越金 28万円
【主な歳出】
・遠軽地区介護認定審査会負担金 14万円
・介護予防ケアマネジメント作成業務委託料 11万円
■平成30年度介護サービス事業特別会計補正予算(第3号)
261万円が追加され予算額が2億3439万円になりました。
【主な歳入】
・前年度繰越金 261万円
【主な歳出】
・燃料費 243万円

ふるさと納税業務代行委託料 433万円を補正

灯油等の価格高騰対策として
高齢者等石油製品高騰対策(福祉灯油)に520万円を補正

【主な歳出】
・特環下水道整備事業業務委託料 35万円

意見書

■難病医療費助成制度の改善を求める意見書の提出について
平成27年1月から新たな難病医療費助成制度が施行され、助成対象疾病の大幅な拡大、レセプト単位だった月額自己負担上限が患者単位になるなど改善がなされました。

一方で自己負担額の引き上げや認定基準の強化なども行われたことにより、厚生労働省が試算していたほど、対象疾病を拡大しても患者数は増加しませんでした。

こうしたことから、自己負担額などの取り扱いを、新制度施行により改善された部分はそのままに、平成26年12月以前の取り扱いに戻すことな

■日米物品貿易協定交渉に関する意見書の提出について
TPP11や日EU・EPAなど農産物輸出大国との経済連携協定が北海道農業へ大きな影響を及ぼす中、米政府と新たな物品貿易協定交渉の開始に合意したことは、北海道農業及び地域経済に多大な影響があると危惧されます。

そのため米国との交渉にあたっては、交渉のベースとしているTPPの水準から更に高い水準で農畜産物関税の削減・撤廃等を求められても、毅然とした姿勢を貫き、安易な関税協議は行わないことを求める意見書が可決され、衆参議院議長及び関係大臣宛てに提出しました。

報告

■道外行政調査報告
10月22日～26日にかけて行った、道外行政調査について報告がありました。
(報告要旨は12～16項に掲載)

第4回定例会が12月12日から13日の間で開催され、議案9件、選挙1件、意見書2件、報告1件の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

・審議した議案①

第4回定例会

第4回定例会

・一般質問①

一般質問

4名の議員が一般質問を行いました。
(紙面の都合上、質問と答弁は要約しています)

【質問】
ここ数日あり運転などの悪質な事故があり、悲惨な状況が報道されています。すべての人々が安全な生活を送り続けることが出来るように法律だけでは解決できない世論が今はあるところで、公用車にドライブレコーダーを設置することで、職員の安全運転意識及び運転マナーの向上、事故発生時ににおける責任の明確化及び迅速な処理の対応が出来ることやその他走行中に偶然発生したトラブルなども記録できると思えます。また、交通安全はもとより事件、事故が発生した時、本町のように防犯カメラが少な

い地域では、特に動く防犯カメラとして町の防犯対策の役割も担えると思えますが、考えを伺います。
【答弁】(町長)
ドライブレコーダーには機能により様々な種類があり、搭載することにより運転者の安全意識の向上が期待できるとされ、さらに事故が起きた時には映像は交通事故の客観的な証拠としては有効とされており、概ね価格は1万円から3万円程度と理解しています。また、防犯対策としての役割を担うとありますが、犯罪捜査に関しては有効と思われるが、犯罪の抑止効果は期待できないと考えています。本町の公用車の搭載状況

は、ふれあいバス12台と建設タンク4台、グレーダー1台に搭載していますが、一般車は搭載していません。今は搭載する考えは持っていません。職員には今後も交通安全マナーの徹底について指導を行ってまいります。
【質問】
近隣町村は未だに搭載はしていませんが、道内では砂川市が順次設置していきっています。本町においても今後入れ替える公用車に搭載することは考えていないのでしょうか。
【答弁】(町長)
ドライブレコーダーは簡単に搭載できるので、検討の中に入っていますが、公用車の整備の関係では9月の胆振東部地震の際に、広報車両のスピーカーの音声が聞き取りにくいということもありました

ので、これらの意見を参考にしながら今後の対策を考えていきます。
【質問】
滝上高校もまもなく閉校になりますが、現在佐呂間高校では地元からの進学率が7割を切り、今後1クラスが20名を切ってしまうと閉校の対象になることも考えられます。共働きの親御さんも多く、給食を希望している家庭もあることから、給食の再度検討は行わないのか、またアンケートなどを取る考えはないのか伺います。
【答弁】(町長)
町で行っている町PTA連合会教育懇談会でも高校に対する給食の要望はありませんが、義務教育ではありませんので、導入に関しては再度検討するにしても、時間をいただきたいと考えています。アンケートについては当然考えていないこともお伝えさせていただきます。

公用車のドライブレコーダー設置について



三田真美 議員

公用車にドライブレコーダーを設置し 職員の安全運転意識向上を
町長…一般車両への設置は考えていない
交通安全マナーの徹底を指導する

佐呂間高校の給食について
滝上高校もまもなく閉校になります。現在佐呂間高校では地元からの進学率が7割を切り、今後1クラスが20名を切ってしまうと閉校の対象になることも考えられます。共働きの親御さんも多く、給食を希望している家庭もあることから、給食の再度検討は行わないのか、またアンケートなどを取る考えはないのか伺います。

第4回定例会

・町長行政報告

町長行政報告

(要旨)

■農業について
今年の春は雪解けが早く、蒔きつけも順調に進み、生育は平年並みに推移しましたが、成長期の不安定な気温や長雨、日照不足などにより農作物全般に大きな影響を受けた年となりました。
農作物の販売額全体としては、当初計画に対し実績では14・6%減の12億4200万円程度となる見込みであります。

■漁業について
外海ホタテ漁業は7500トンの水揚げを見込み、販売価格については国内全体の水揚げ量の減少により平均単価137円で取引されて販売は順調です。
養殖ホタテ漁業の生産量は1760トン、キロ単価は520円の見込みであります。
さけ定置網漁は漁獲量は478トンと昨年並みですが、小型漁であったことから、単価は3割程度下がり、漁獲金額で3億500万円と対前年比66%の水揚げ額となりました。

■林業について
町有林については、造林事業・下刈り事業など46箇所が完了し、現在、素材生産事業1箇所と除間伐事業2箇所を実施中、今後も除間伐事業を4箇所行つ予定です。
民有林についても森林組合が補助制度を活用しながら造林事業・下刈り事業など263箇所を実施しています。

第1回定例会は3月に開催されます!!

日程の詳細は、町広報3月号の折込みチラシをご覧ください。ぜひ傍聴にお越しください。

第4回定例会

・一般質問②



高橋紀久 議員

学校・教育における諸課題について

未来を担う子供たちの目線から見た学校・教育におけるさまざまな課題が散見されると感じ、以下に質問します。

【質問】
小中学生の通学時のかばんなどの重さが子供たちの負担になっていると聞きます。

文科省が教科書などを学校に置いて帰る「置き勉強」を認めるよう全国の教育委員会に通知したとのことですが、このことが根本的な解決となっていないのではと感じ、通学時のかばんなどの重さに対する考えを伺います。

【答弁】（教育長）
教科書が大判化し、学習内容・総ページ数も増え、教科書を軽くする工夫は限界に来ている中、文科省や道教委か

小中学生の通学かばんの重さ対策 どのような考えを持っているか

教育長…文科省から目安が示されれば必要に応じて各学校で検討する

【質問】
授業の時間割の工夫によって持ち物を減らすなどの考えを伺います。

【答弁】（教育長）
小中学校で習う分は学習指導要領の中でこの月数には何をすると決まっております、各学校が時間割を毎週決めて、その進度に応じる学習過程があるので、対応は難しいです。

【質問】
これから授業数も増える中、土曜授業に対しての考えを伺います。

【答弁】（教育長）
過去に土曜授業実施について保護者にアンケートをとった結果、土・日曜日に少年団活動等があり、なかなか実施には移せないだろうということに至り、今は教職員の働き方改革もあり、土曜授業は難しいと考えています。

【質問】
通学の時間を有効に活用できるよう、ICT環境を整備するなど、これからの時代に対応するふれあいバスの整備に対する考えを伺います。

【答弁】（教育長）
ふれあいバスは普通の乗り合いバスとして使用する前提に、市民の利便性を目的として整備されたもので、ICTなどの整備は現時点では考えていません。

【質問】
子供の数も減少していくことが予想されますが、3つの小学校の今後の方向性についてどのような考えが伺えます。

【答弁】（教育長）
育った地域において教育条件に著しい格差があってはならず、義務教育の機会均等とその教育水準の維持向上に努めています。

保育所入所認定基準の見直しについて

【質問】
現在保育所に入所する要件は10項目あります。

第2子以降の妊娠・出産のため仕事をやめた時、第1子の年齢が3歳未満児の場合退所しなければなりません。出産前後の母親にとっても子供にとっても大きな環境の変化となります。

家族の形も大きく変わり、また少子化時代の今、保育所での遊びや異年齢集団での生活が子供の発達にとって大切なことと思えます。

3歳未満児の継続入所を希望する保護者がいる場合、それに対応する見直しができるかをお伺いします。

【答弁】（町長）
入所要件は法律に基づき内閣府が定めたもので、同一基準を認定要件とすることで地方交付税に算定されますので、入所基準の見直しは今のところ考えておりません。

・一般質問③

第4回定例会



但木早苗 議員

胆振東部地震をうけて本町における災害時の今後の対策について

胆振東部地震から3カ月が経ちましたが、災害が起こる度に様々な課題も浮き彫りになっており、あらゆる問題を想定した対策が求められると考えます。

【質問】
そこで町の災害時の対策について改善点や新たな対策があるのかお伺いします。

【答弁】（町長）
地域にある避難所への発電機の設置について伺います。

【答弁】（副町長）
若佐・浜佐呂間コミセンに各1台、役場防災倉庫に12台備蓄しています。

【答弁】（副町長）
公民館等避難所と指定している所への設置は、燃料の劣化等も考えると今のところ考えていません。

地域にある避難所への発電機の設置状況は

町長…若佐・浜佐呂間コミセンに各1台
副町長…公民館等への設置は考えていない

【質問】
防災訓練の徹底について伺います。

【答弁】（町長）
防災意識の高揚や防災訓練等自発的な参加や伝承は重要ですし、自らの身の安全は自ら守るという基本に立ち、平時からの取り組みが重要と考えています。

【質問】
今後避難訓練の必要性、重要性から実施に向けて協力を自治会に要請したいと考えているところですか。

【答弁】（町長）
第1次産業、医療・介護事業者等々関係機関との災害時に向けた協議の必要性について伺います。

【答弁】（町長）
議会の方へ報告はしていま

第2回臨時会

第2回臨時会が11月30日開催され、議案7件、承認2件の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

・審議した議案

第4回定例会

・一般質問④



小松正義 議員

来年度予算と施策について

【質問】平成31年度の一般会計並びに特別会計の予算概要及び施策計画について伺います。

【答弁】(町長)

第4期総合計画に定めた将来像の実現を目指すとともに、5力年の後期実施計画と地方創生戦略に掲げた重点プロジェクトの実行に努め、限られた財源で各種施策に取り組みむとともに、成果を検証し継続してまいります。

【質問】平成31年度の一般会計の総額は51億円から52億円程度の見込みで、特別会計は6特別会計の合計が24億円程度になると見込んでおり、当初予算の総額は75億円から76億円程度と予想しています。

【質問】平成31年度の主体となる施策について伺います。

【答弁】(町長)平成31年度の主要事業は現状の施設延命を図る継続事業で、一つは町の水道体制の構築、さらに遠軽地区広域組合のマテリアル施設の建設を進めてまいります。

【質問】消費税増税に伴う商店の機器導入に、支援を行うのか伺います。

【答弁】(町長)

消費税の改定に伴いレジシステム等の改修が必要と思われる。国の支援策として、税率の改正及び軽減税率に対応するレジシステム等の入れ替えを行う場合、補助率3分の2、補助上限20万円を交付する制度もあり、関係団体と連携し、

介護職員の雇用対策として町独自の考えはあるか

町長：介護職員の確保のため公設民営化など来年3月までに判断

支援策の周知・相談対応等制度改正のスムーズな対応を進めてまいります。

【質問】消費増税への支援策としてカード利用によるポイント還元が話題になっていますが、

老人福祉施設等の介護職員雇用状況及び今後の対策について(日30年3月一般質問以後)

【質問】平成30年3月に伺いましたが、老人福祉施設等の介護職員の雇用及び今後の対応という事で再度、現在の状況について伺います。

【答弁】(町長)

特養は平成31年4月から介護職員18名、看護士3名など合わせて、25名体制で運営したいと考えています。

【質問】介護職員に対するアンケート調査や、雇用対策の町独自の考えがあるか伺います。

カード利用の少ないお年寄りの方々が損をしてしまう税制改正に、支援を行う考えがあるか伺います。

【答弁】(町長)これが決定になれば商店街の振興も大きく左右されることは否めない事実ですので、町を挙げて今後の対応をしてまいります。

本町ではプレミアム商品券を10年間やっているのですが、何らかの支援として積極的に関わってまいりたいと考えています。

【答弁】(町長)

園長を中心に月1回全体ミーティングを行っており、アンケートは必要ありません。今後とも介護職員を確保し、安定した運営を維持するためには、社会福祉法人等に公設民営など運営を担っていただくのが有効と考えており、経営委員となるか、指定管理制度に基づく委託となるか、今後検討し、来年3月までに法人の募集、働きかけを判断しなければならぬと考えています。

第2回臨時会 11月30日

審議した議案

予算

【主な歳入】平成30年度一般会計補正予算(第8号)

368万円が追加され予算額が50億7462万円になりました。

【主な歳入】

・普通交付税 300万円

【主な歳出】

・職員手当(教育費一般職) 219万円

【主な歳入】平成30年度簡易水道特別会計補正予算(第1号)

1万円が追加され予算額が3億2896万円になりました。

【主な歳入】平成30年度介護保険特別会計補正予算(第3号)

38万円が追加され予算額が5億4061万円になりました。

条例

【主な歳入】平成30年度介護サービス事業特別会計補正予算(第2号)

206万円が追加され予算額が2億3177万円になりました。

【主な歳入】

・前年度繰越金 206万円

【主な歳出】

・代替人夫賃等 132万円

【主な歳入】町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

特別職の給料額及び旅費額並びにその支給条例の一部改正

職員給与に関する条例の一部改正

その他

■専決処分の承認

平成30年度一般会計補正予算(第7号)の専決処分について承認しました。

321万円が追加され予算額が50億7093万円になりました。

【主な歳入】普通交付税 300万円

【主な歳出】災害対策に要する経費 321万円

町長行政報告 (要旨)

■第5期総合計画策定審議会を設置

10月16日に28名の委員の方に委嘱状を交付させていただきました。会長に高橋俊道氏、副会長に渡部修一氏が選任されました。

これから約2年間にわたる審議のもと答申内容をまとめていただきます。

■胆振東部地震被災地支援のための職員派遣

北海道を通じ被災地への短期職員派遣の要請があり、11月5日から9日までの5日間、かわ町へ4名の職員を派遣いたしました。

■和解及び損害賠償の額の決定について
ふれあいバス乗車中の事故により負傷された方への損害賠償の額が、次の通り決定になりました。
・損害賠償の額 56万6697円

議会ニュース

・道外行政調査報告②

●子育て支援特別手当交付事業
子供の誕生を祝い、健やかな成長を促すため、第1子に5万円、第2子に10万円、第3子には4歳まで毎年10万円（総額50万円）、第4子以降には4歳まで毎年20万円（総額

●移住・定住視察旅費補助金
南大隅町への移住・定住を真に希望する町外者が、町内の宿泊施設を利用し、町の現状を視察・確認するための旅費について、往復の交通費と宿泊料の50%、5万円を上限に助成する。

●住み続ける住宅助成事業
既存の住民の住宅改修に対し、事業費の15%以内で25万円を上限に助成する。
なお、改修をするのが子育て世帯の場合は、事業費の20%以内で、30万円を上限に助成する。

●移住・定住促進家賃補助金
町内の賃貸住宅に居住する転入者に対し、入居月から1年間、毎月の契約家賃から住宅手当等を差し引いた額の50%以内で、月額2万円を上限に助成する。

100万円)を支給する。

●保育料軽減事業
子育て世代の負担軽減のため、第1子と第2子の保育料を半額助成し、第3子以降については全額を助成する。

●給食費軽減事業
町立の幼稚園・小学校・中学校に通う児童生徒の給食費を軽減し、自己負担額を一律で月額1千円とする。

■調査を終えての所感
南大隅町が様々な支援事業を行っている現状には目を見張るものがあります。
温暖な鹿児島県での対策が一概に本町でも有効かは別として、空き家の情報発信や移住・定住のための施策及び情報発信については検討してみたい価値はあると感じました。



議会ニュース

・道外行政調査報告①

議員による道外行政調査は4年に1度実施しており、今回は10月22日から26日にかけて、9名の議員が九州地方の4市町の行政調査を行い、第4回定例会において報告がなされました。
(掲載内容は報告書を要約したものです)

鹿児島県肝属郡南大隅町
人口 7,308人
世帯数 4,012世帯
面積 213.57km²
九州本島最南端に位置する農業と水産業の町で、平成17年3月に根占町・佐多町が合併して誕生しました。人口減少率と高齢化率が非常に高く、そのため空き家が増加したことから、様々な対策を行っています。

■空き家対策の概要
町内に不動産業者がいないことから、町が空き家の情報集約・発信を行う空き家バンク制度を平成22年に開始し、所有する空き家の賃貸または売却を希望する空き家バンク登録者と移住等希望者との間の連絡調整を行っています。
(※条件交渉や契約については当事者間で行い町は関与していません)
また平成28年度には町内にある1276棟の空き家の調査を実施し、状態に応じてA～Eまでの5段階にランク付けを行いました。
(※Aランク・補修が少なくて居住可、Eランク・倒壊で他に影響を及ぼす可能性あり)



南大隅町の取り組みについて説明を受ける

●空家等環境整備事業
空き家バンクへの登録を条件に、空き家に残っている家

●定住・移住対策の概要
移住を希望する人や、既に住んでいる町民が長く定住するため、住宅に関する各種助成制度が設けられているほか、子育て世代の移住・定住を増やすために各種子育て支援が行われています。

●定住促進住宅取得資金補助金
新築・購入
町外から転入し10年以上居住することが確実な70歳未満の人で、新築または中古住宅を購入する際に、契約額の10%以内で100万円を上限に助成する。
(※新築の際に建設業者が町外業者の場合は上限は30万円)
なお、住宅を新築・購入する地域や移住者の家族構成、年齢に応じて助成額への加算金が設定されている。
・改修
賃貸希望者が確実にいる空き家を改修する際に、空き家の所有者に対して事業費の50%以内で25万円を上限に助成する。
(※改修業者は町内業者に限る)

鹿児島県・南大隅町 「空き家対策及び定住・移住対策」

道外行政調査報告

財道具の処分費用を5万円を上限として全額助成する。
●空家等解体撤去事業
建築後10年以上経過し、1年以上空き家の住宅の解体工事で、事業費が30万円以上の工事を対象とし、事業費の30%以内で30万円を上限に助成する。
(※住宅に付随する倉庫、車庫なども対象)

宮崎県児湯郡都農町
人口 10,169人
世帯数 4,003世帯
面積 102.11km²
宮崎県のほぼ中央部に位置し、お互いの町にトーヨータイヤのテストコースがあることから交流が始まり、平成26年には経済交流協定を交わし、互いの町のイベントに出店するなどつながりの深い町です。

宮崎県・都農町 「道の駅「RS」の運営体制」

●道の駅「つ」の「オープン」に至った経緯
都農町では2020年に町政100周年を迎えるにあたり、①中心市街地活性化、②保健・医療・福祉の連携充実強化、③災害に強いまちづくりの3つを柱に、まちづくりを進めています。
その中で、衰退している中心商店街の活性化のため、にぎわい創出の拠点として、地域の農・畜・水産物や加工品、工芸品などの販売を行う、道の駅を、県内でも有名な一之宮都農神社と一体化した形で平成25年に開設しました。
この道の駅を中心に、特産品である都農ワインのワイナリーから都農駅までを広く活用し、「町外から人を呼び込み、町内に滞在してもらうこと」で、外貨を稼ぐシステム作りを進めており、道の駅の成功は都農町の成功といっても過言ではないと思うほど力を入れていきます。
今後は年間の来場者数100万人、売り上げ10億円を目標に、更なる魅力アップ

議会ニュース

・道外行政調査報告④

議会ニュース

・道外行政調査報告③



宮崎県東諸県郡国富町
 人口 18,859人
 世帯数 7,638世帯
 面積 130.63km²
 宮崎県中部に位置し、町役場のある本庄地区は江戸時代は天領(幕府の直轄地)で、水運による物資の集積地として賑わいました。
 現在は農業と先端産業の町となっています。

宮崎県・国富町 「次世代施設園芸による大規模施設(植物工場)の構築」

●次世代施設園芸団地の概要
 農林水産省の次世代施設園芸導入加速支援事業として整備された全国に10拠点あるうちの一つ。
 ハウス、育苗施設、集出荷施設が一体的に整備され、これらの施設には高度なICT(情報通信技術)を活用した「統合型施設園芸生産支援システム」が導入されており、ピーマンとキュウリの育苗から出荷までを一体的に行い、10a当たりの収量が一般的な農家の約1.5倍になることを目標に事業が行われています。

●施設概要
 ・平成27年7月13日竣工
 ・総事業費 14億4300万円

●設置施設
 ①低コスト耐候性ハウス 50a7棟 3.5ha
 ②種苗供給施設 30a2棟 0.6ha
 ③集出荷施設 0.4ha

●統合型施設園芸生産支援システム
 園芸施設の環境制御を行うUECS(※ウエックス・ユビキタス環境制御システム)を核に、多収栽培技術や木質バイオマス暖房機等によるコスト削減、栽培管理履歴・育成データを取り込んだ高度生産管理システムを組み合わせたもの。

●次世代施設園芸団地の運営
 施設園芸団地の事業主体はJA宮崎中央のほか、農業以外の企業も含む12団体で構成された「宮崎中央地域次世代施設園芸コンソーシアム」で



高度にシステム化されたハウス内を視察

●新規就農研修事業
 研修圃場に14棟あるハウス(面積163a)を研修生1人に1棟持たせて、JAの重点作物であるキュウリとミニトマトの栽培を行わせることで、自主性・責任感を養っている。

●調査を終えての所感
 本町とは農業環境は違うものの、冬場の野菜供給はこのような施設があって補えるもので、消費者にとって非常にありがたいものと考えます。
 今後も進歩するICTを活用した施設園芸等が、積雪寒冷地でも適用できるようになればと思います。

のため駐車スペースの拡充、参加体験型施設や防災拠点としての機能の充実、新たな特産品の開発を行うところです。

●道の駅「つの」の概要及び運営状況
 道の駅は国道10号線沿に面しており、近くには高速道路のインターチェンジがあるなど交通アクセスに優れています。
 また大都市である宮崎市・延岡市から車で1時間の距離にあり、県内で由緒ある一之宮都農神社の隣接地に建設したことで、町外から多くの人々が立ち寄る立地条件となっています。

そのための開設後の来場者数と売上は年々右肩上がりであり、平成29年度には年間来場者数が68万5600人、売上が11億7800万円となっています。
 (※売上高の内、店頭販売の売上は4億4千万円、残りの7億4千万円は都農町ふるさと納税返礼品の売上)

●道の駅「つの」施設概要
 ・平成25年7月31日開設
 ・総工費 9億8千万円
 ・敷地面積 21004m²



好立地に整備された道の駅「つの」

●運営会社
 道の駅の運営は都農商工会、JA尾鈴、都農漁協の3者が出資する「(株)都農まちおこし屋」という、全国でも珍しい形態の運営会社が行っています。

●道の駅「つの」出荷者協議会
 道の駅に商品を納入している、都農町と隣の川南町の生産者の協議会で、現在は330名の会員がいます。
 道の駅は商品がなければ成り立たないことから、運営会社では生産者も来場者と同様に客と考え大切に扱っており、職員は生産者が納品に訪れた際にコミュニケーションを取り、信頼関係を作ることや肝に銘じているとのことでした。

しかし会員の高齢化が進んでいるため、今後は生産者自身での納品が出来なくなることが懸念されており、商品の集配システムの検討が必要になっています。

●設置施設

- ①物産館
- ②観光交流会館
- ③公衆トイレ
 - 男性用 13基
 - 女性用 10基
 - 身障者用 2基
- ④情報休憩コーナー
- ⑤駐車場
 - 大型車 10台
 - 普通車 135台
 - 身障者用 2台

●利用時間
 9時～18時(通年)
 フードコーナー
 10時半～18時(通年)



地元の特産品が数多く並ぶ物産館

議会ニュース

・委員会レポート

議会ニュース

・道外行政調査報告⑤

■12月4日
◎所管事務調査

- ①ふるさと応援事業寄附金健康診査等実施計画
- ②国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画
- ③職員の自己啓発休業に関する条例の一部改正
- ④遠軽地区広域組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更
- ⑤業務継続計画の策定
- ⑥高齢者等石油製品価格高騰対策助成事業（福祉灯油）
- ⑦漁村環境改善総合センターの処分に係るスケジュール

その他

常任委員会終了後、現地調査を実施し、①佐呂間コミセン、②バスターミナル、③佐呂間保育所、④高齢者福祉住宅「安心ハウス2」、⑤若佐コミセンを視察しました。

②バスターミナル
昭和62年の建設で、経年劣化により雨漏りが起きていたことから、外壁の改修及び屋根の塗装が行われました。



改修された床や天井の状況を視察（佐呂間コミセン）

①佐呂間コミセン
集会施設や商工会事務所として利用されていますが、老朽化が進んだため施設内部の大規模改修が行われました。



改修により真新しくなったバスターミナル

③佐呂間保育所
玄関やテラスなどの床に、入所児童の安全のため貼られていたゴムチップタイヤが、劣化したことから張替が行われました。



テラス側の張り替えたタイヤを視察（佐呂間保育所）



エアコンも完備した安心ハウス2の居室

総務福祉 常任委員会

常任委員会で現地調査を実施

委員会レポート

30年11月、
31年1月

熊本県山鹿市
人口 52,345人
世帯数 21,807世帯
面積 299.69km²
熊本県北部に位置し、平成17年1月に山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町が合併して誕生しました。
江戸時代から賑わう山鹿温泉や、国指定伝統的工芸品の山鹿灯籠を用いた山鹿灯籠まつりが有名な、歴史と伝統のまちです。

熊本県・山鹿市

「やまが肝いりどん（結婚支援）事業と「結婚したい」

●やまが肝いりどんの仕組み
「肝いりどん」とは結婚を希望する男女の出会いを取り持つお世話役の結婚サポートのことです。事業開始時は市が推薦した5名と、公募で選ばれた7名の12名で構成されています。現在は先に活動していた「肝いりどん」からふさわしい人物が推薦されることで人数が増え、17名（※平均年齢66・1歳）が活動しています。

■やまが肝いりどん（結婚支援）事業の概要
近年の結婚観やライフスタイルの変化により、未婚化・晩婚化が進み少子高齢化が進行することから、定住促進、人口減少対策、地域の活性化のため、山鹿市が結婚相談・支援活動を行う「やまが肝いりどん」事業が平成23年6月から開始されました。

が担当するか決定し、担当する希望者と面談をして信頼関係を深めながら相談や支援を行い、連絡会議の場で「肝いりどん」同士で条件などの情報交換を行い、登録者の希望に合ったお見合いを設定します。



やまが肝いりどん事業について説明を受ける

●事業の効果と課題
結婚希望者として登録できるのは50歳未満の男女で、山鹿市に居住しているか、結婚後に市に居住する人で、登録期間は2年間。（※再登録は可能）

■調査を終えての所感
「肝いりどん」の活動はほとんどボランティアで負担も多いが、この事業への山鹿市の熱意を理解し、市の明るい未来を期待して引き受けていることで、事業は成功していると考えられます。

本町でも「さるまちこん」などが開催されていますが、成婚に至る数は少ないことから、山鹿市の取組はヒントに出来るものがあるのではと考えさせられるものであります。

平成30年9月末現在で男性76名、女性66名が登録しており、事業開始から平成29年度までに400件のお見合いが行われ、21組が成婚に至っています。
しかし中には登録しただけで安心し、お見合いの際に自分をアピールできないなど、結婚に消極的な人がいることから、平成26年度からは婚活セミナーやイベントなどを開催し、異性へのマナーや接し方を学ぶことで、登録者の結婚への積極性を養う活動も行っているところです。

議会ニュース

・委員会レポート



駐車場移設工事箇所を視察（町立図書館）



ビニール床に張り替えられた教室（浜佐呂間小学校）

- 12月11日
 - ◎ 第4回定例会運営について
 - ① 一般質問の提出状況及び概要説明
 - ② 議案等の提出状況及び概要説明
 - ③ 議案等の取扱いについて
 - ④ 会期及び議事日程について
 - ⑤ その他
- 12月13日
 - ◎ 第4回定例会運営について
 - ① 追加議案等の提出状況及び概要説明
 - ② 議案等の取扱いについて
 - ③ 議事日程について

- 11月30日
 - ◎ 第2回臨時会運営について
 - ① 議案等の提出状況及び概要説明
 - ② 議案等の取扱いについて
 - ③ 会期及び議事日程について
 - ④ その他

議会運営委員会

- 12月12日
 - ◎ 所管事務調査
 - ・ 日米物品貿易協定交渉に関する意見書の提出について

西富老人クラブと懇談会を開催

町議会では町内の団体などへ議員が出向いて懇談させていただき出向き議会懇談会を実施しておりますが、この度西富老人クラブ（会長・井上孝一氏）から申し込みをいただき、11月27日に老人福祉センターにおいて、老人クラブの会員22名の方と議員9名が参加して開催いたしました。懇談会では町の過疎化、高齢者への交通支援、ごみの出し方、サンガールセンターまの入居待機など会員の方が関心を寄せる問題について、議員と意見交換を行いました。



- 12月12日
 - ◎ 所管事務調査
 - ① 出向き議会懇談会の実施結果について
 - ② その他

議会活性化等特別委員会

- 11月16日
 - ◎ 所管事務調査
 - ① 出向き議会懇談会について
 - ② その他

議会広報特別委員会

- 12月13日
 - ◎ 所管事務調査
 - ・ 議会だより117号の発行について

議会ニュース

・委員会レポート



使いやすくなった身障者トイレ（若佐コミセン）

◎ 若佐コミセン
女子トイレの洋式化と、身障者トイレの水流しが、シャワーからリモコンボタンに改修されました。

■ 12月5日
◎ 所管事務調査
現地調査を実施し、①若里基線道路、②佐呂間30号道路、③市街地排水処理事業（佐呂間小公園内）

産業文教常任委員会

- 12月12日
 - ◎ 所管事務調査
 - ③ 市街地排水処理事業
北海道が新たに設置した樋門へ接続する管渠排水工事が小公園内で行われました。



早期の完成が待たれる若里基線道路

①若里基線道路
平成25年から工事が行われており、総延長1800メートルのうち、今年工事した分を合わせて1060メートルが完了しました。



小公園内の管渠を視察（市街地排水処理事業）



改良により通行しやすくなった佐呂間30号道路

◎ 町立図書館
図書館と児童公園の間にあった駐車場を自転車置き場のあった箇所へ移設したほか、玄関自動ドアの改修が行われました。



コンピュータ教室を視察（佐呂間小学校）

④ 佐呂間小学校
児童用タブレット型パソコンや校内無線LAN環境などを整備し、ICT（情報通信技術）を教育に活用する環境が整えられました。



但木 早苗 議員



吉野 正剛 議長



三田 真美 副議長



加賀屋 修 議員



佐藤 昭男 議員



土田 剛 議員



小松 正義 議員

議員の顔写真に替えてイラストを使用します！

町民の皆さんに議員により親しみを感じてもらうため、今号から議員の顔写真に替えて似顔絵イラストを使用します。
どの議員の似顔絵も特徴をよく捉えたものになっています。



山内 一弘 議員



船木 司 議員



高橋 紀久 議員

議員のつぶやき

老い

見ている、見つめている何気なく...17歳の老いた彼女。いつの間にか私の年を遥かに通り越してしまっただ。歩く姿もただとどしく、顔も老いてきた様子が見えるのだが「めんこい」彼女(愛犬イクラ・通称メンチャン)の語りかけるような眼差しは、先々の私の姿を映すかのようだ。
自分としては70歳で還暦と決め、その通りに歳を重ねている気がするが、性格は並行せず角が取れない頑固ジジイ、少しでも可愛いジジイに変身しなければと思いつつメンチャンに語りかけたら逃げられた・・・。
されどする賢い、媚びる卑怯な者を許すことができないこの性格は、譲れないものと諦めた。
人生まだまだ、ここからは健康が一番、もうひと踏ん張り頑張りましょう同年代。

(小松正義)